

平成26年度 高体連報告書  
新体操専門部 西川 隆剛

平成25年度の全国高等学校新体操選抜大会（岐阜県岐阜市）において、男子の神埼清明高校は団体3位入賞を果たした。女子の佐賀女子高校は演技途中でミスがあり14位に終わった。

全国総体新体操大会は8月東京都国立代々木体育館で開催された。地元開催となった25年度の全国総体では男子の神埼清明高校と女子の佐賀女子高校が団体アベック優勝を果たし、今年度連覇に向けて男女とも大きな期待がかかった。

初日は個人競技が行われ、男女とも演技順は後半に位置していた。男子の栗山巧は2年生ながら九州大会を2年連続優勝し、全国でもトップレベルの技術を持つ。個人競技も上位入賞に期待がかかる。男女とも、2種目の演技を行い総合順位が決まるが、栗山は2種目ともミスが出てしまい入賞にはいたらなかった。女子は、九州大会で総合2位の松本優香が、2種目はぼノーミスで総合6位入賞、種目別もボールで6位に入賞した。

団体競技は男子の神埼清明は、中盤の倒立でミスがあり減点を受けた。最後まで粘り強い演技を見せたが、6位入賞にとどまった。女子の佐賀女子高校は、演技中盤のミスが続き、16位という結果に終わった。

新体操という競技は、男女とも、一つのミスが致命的な減点につながる場合が多く、順位結果が左右される。特に団体競技で上位に入るチームは、高得点を狙い、構成でも難度の高い技を何度も演技に盛り込み、独創性のある演技で勝負をかけてくる。難度が高い分、当然リスクも高い。試合では、その難度の高い技をノーミスで終える事が一つの目標にもなる。

また、男子では難度の高い宙返りや組運動が大きなポイントにもなるが、その分日頃の練習段階からケガのリスクも高く、ケガでメンバー交代をせざるを得ない場合は、同じ技をできるとは限らないので、演技種目の変更も考えなくてはならない。指導者としては、とても頭を悩まされる。

ここ数年、県外のチームで全国大会上位に入るチームは、ジュニア層の育成が盛んになってきている地域、あるいは私立高校である。佐賀の新体操も、男女ともジュニア層の育成に力を入れてきているが、男子はまだまだ底辺の拡大が必要と感じる。男子のジュニアクラブ自体のクラブ員は、30名程で新体操の一つのチームとしては多い方だが、年齢層は分散しており、4～5人いる学年もあれば0人の学年もある。団体競技のことを考えると、ジュニアクラブとしても頭が痛いところである。

今後、全国トップレベルで勝負をしていくには、ジュニアからの経験者の力は欠かせない。指導者として、競技をする子どもたちの確保と、小・中・高と連携した指導体制の強化を図ることが、佐賀県の課題であり新体操の競技レベルの維持・向上につながるものだと考える。

●全国選抜大会

[男子団体]

順位	学校名	構成	実施	合計
3位	神埼清明高校	9.525	9.275	18.800

[女子団体]

順位	学校名	構成	実施	合計
1位	佐賀女子高校	5.600	6.533	12.133

[男子個人]

順位	学校名	スティック	リング	ロープ	クラブ	合計
8位	栗山 巧(清明)	9.300	9.025	8.400	9.025	35.750

[女子個人]

順位	選手名(学校名)	フープ	ボール	クラブ	リボン	合計
6位	松本 優香(佐女)	12.500	12.200	12.400	11.400	48.500
7位	松本 愛香(佐女)	12.750	12.450	12.750	10.100	48.050

●全国高校総体

[男子団体]

順位	学校名	構成	実施	合計
6位	神埼清明高校	9.500	9.225	18.725

[男子個人]

順位	選手名(学校名)	ロープ	クラブ	合計
13位	栗山 巧(清明)	8.700	9.100	17.800

[女子団体]

順位	学校名	D	E	合計
16位	佐賀女子高校	7.700	7.966	15.666

[女子個人]

順位	選手名(学校名)	フープ	リボン	合計
6位	松本 優香(佐女)	13.100	13.450	26.550